

1. 国際シンポジウム 1930年前後の文化生産とジェンダー Gender and the Cultural Production in the Years Around 1930



1930年前後は、戦間期に湧出した多様な文化が交錯し、欧米からの情報の流入やアジア内での情報の流通が拡大しており、地域横断性を重視した研究が求められている。本シンポジウムでは、そこにジェンダーの観点を加え、とくに「生産＝男性／受容と消費＝女性」という既存の枠組の再検討を企図し、文化生産の主体としての女性の動向について検討した。アジアにおける文化の生産・流通の具体相と、階級・人種・ナショナリティなどによって生じるジェンダー・カテゴリー内の複数性を考察することによって、新たなアジア・ジェンダー学を目指し、熱い議論が交わされた。また、初日午前中には、次世代パネル「アジア圏文化における身体＝ジェンダー」を開催した。

以下が全プログラムである。今号のレビュー欄に掲載した陳晨氏による参加記も参照されたい。

主催：名古屋大学大学院人文学研究科附属「アジアの中の日本文化」センター
会場：名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ

1月20日 [土]

●次世代パネル [10:00-12:00]

【アジア圏文化における身体＝ジェンダー】

企画：大木龍之介 (名古屋大学大学院)・奥村華子 (名古屋大学大学院)

呉静凡 (お茶の水女子大学大学院)

『腐女子』は趣味について何を語るのか——ジェンダー秩序をめぐって

中山佳子 (名古屋大学大学院)

老いの身体における「正常な異常性」——ドラマ「やすらぎの郷」にみる老いの身体と正しい身体の関係性

游書昱 (名古屋大学大学院)

1960年代後半の『メンズクラブ』という場——「メンズ」とは誰のことなのか

王温懿 (名古屋大学大学院)

『愛のコリーダ』による「民主」と「女性解放」——1970年代のポルノグラフィ映画とポリティクス

ディスカッサント：光石亜由美 (奈良大学)

司会：大木龍之介 (名古屋大学大学院)

●セッション 1 [13:10-17:00]

【マルクス主義におけるジェンダー表象】

呉佩珍 (台湾政治大学)

女性解放と恋愛至上主義とのあいだ——大正、昭和期におけるコロタイ言説の受容

中谷いずみ(奈良教育大学)
階級闘争と女性解放の夢

李惠鈴(成均館大学)
社会主義運動とモダンガール——韓国近代長編小説の様式におけるある秘密

ディスカッサント:林葉子(大阪大学)
司会:池内敏(名古屋大学)

1月21日[日]

●セッション2 [9:00-12:00]
【交渉する表現主体とジェンダー】

笹尾佳代(神戸女学院大学)
『女人芸術』の新人作家——社会運動と〈文学〉の交渉

星野幸代(名古屋大学)
“閨秀作家”凌叔華の1930年代

木下千花(京都大学)
1930年代前半の日本映画産業における女性パイオニアの可能性——入江たか子のスター・プロダクション再考

ディスカッサント:岩田クリスティーナ(名古屋大学)
司会:藤木秀朗(名古屋大学)

●セッション3 [13:00-15:00]
【女性知識人の1930年前後】

飯田祐子(名古屋大学)
「女性」の分裂と集合をめぐる闘争

サラ・フレデリック(ボストン大学)
『女人芸術』のインターセクショナリティ——階級、エスニシティ、性、意識と『女人芸術』のフェミニズム

ディスカッサント:尾形明子(文芸評論家)
司会:浮葉正親(名古屋大学)

●総合討論 [15:20-17:30]
司会:飯田祐子(名古屋大学)

2. 「アジアの中の日本文化」研究セミナー



第14回
2017年7月10日
「映像研究とメディア考古学」
講師：大久保遼（愛知大学文学部特任助教）
司会：藤木秀朗（名古屋大学）



第15回
2017年11月30日
「ジェンダー史研究の可能性——「銃後と前線」という語り」
講師：長 志珠絵（神戸大学国際化学研究科教授）
司会：飯田祐子（名古屋大学）



第16回
2018年2月9日
「デジタル時代における国際映画祭と地方コミュニティ」
講師：畑あゆみ（認定NPO山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局）
司会：藤木秀朗（名古屋大学）

3. 第3回名古屋大学・台湾大学大学院生研究交流集会 「学究の百花繚乱」

2017年6月17日（土）
場所：名古屋大学文系総合館カンファランスホール
主催：国立台湾大学日本研究センター、
名古屋大学文学研究科附属「アジアの中の日本文化」研究センター、
同附属人類文化遺産テキスト学センター

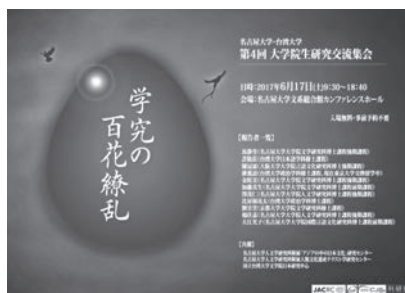
●基調講演

講師：徐興慶（台湾大学日本語文学系・教授／日本研究中心主任）
近世日中文化交流の断章——『独立性易全集』刊行までの史的考察
司会：池内敏（名古屋大学大学院人文学研究科・日本史学・教授）

●セッション1：言語

司会：林立萍（台湾大学日本語文学系・教授／日本研究中心副主任）

馬静雯（名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程・日本文化学）
「和刻三言」における語気助詞の訓読について
コメンテーター：辻本雅史（台湾大学日本語文学系・教授／日本研究中心執行委員）



許妝莊(台湾大学日本語学科修士課程)

「呂赫若の作品における語彙の特色——台湾語の語彙・片仮名で表記する語彙・漢語の語彙を中心に」

コメンテーター:黄英哲(愛知大学現代中国学部・台湾文化・教授)

陳冠霖(大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程)

「台湾人日本語学習者のアクセント感——台湾在住学習者と大阪在住学習者の比較」

コメンテーター:宮地朝子(名古屋大学大学院人文学研究科・日本語学・准教授)

●セッション2: 前近代

司会:阿部泰郎(名古屋大学大学院人文学研究科・文化人類学・教授)

蔣薰誼(台湾大学政治学科修士課程、現在東京大学交換留学中)

「清儒對狄生徂徠(論語微)的接受與批判」

吉田純(名古屋大学大学院人文学研究科・中国哲学・教授)

金陀美(名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程・比較人文学)

「春日明神託宣における明恵上人の夢」

コメンテーター:曹景恵(台湾大学日本語文学系・副教授/日本研究中心執行委員)

●セッション3: 近代

司会:藤木秀朗(名古屋大学大学院人文学研究科・映像学・教授)

加藤真生(名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期課程・日本史学)

「日清戦争におけるコレラ流行と防疫問題」

コメンテーター:徐興慶(台湾大学日本語文学系・教授)

澤茂仁(名古屋大学大学院人文学研究科博士課程後期課程・映像学)

「大写し」をめぐる映画経験——『島の女』(1920)と「ドツと笑う」見物

コメンテーター:飯田祐子(名古屋大学大学院人文学研究科・日本文化学・教授)

比屋根亮太(台湾大学政治学科博士課程)

「中華民国国内外要素が琉球政策に与える影響——1943年から1972年の琉球帰属問題を中心に」

コメンテーター:池内敏(名古屋大学大学院人文学研究科・日本史学・教授)

●セッション4: ジェンダー

司会:藤木秀朗(名古屋大学大学院人文学研究科・映像学・教授)

劉昱萱(京都大学大学院文学研究科修士課程)

「『伽婢子』における女性描写について」

コメンテーター:阿部泰郎(名古屋大学大学院人文学研究科・文化人類学・教授)

楊佳嘉(名古屋大学大学院人文学研究科博士課程後期課程・日本文化学)

「『女人芸術』における日本女性知識人の中国観」

コメンテーター:星野幸代(名古屋大学大学院人文学研究科・ジェンダー学・教授)

大江光子(名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士課程前期課程・ジェンダー学)

「村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』における他者の物語」

コメンテーター:飯田祐子(名古屋大学大学院人文学研究科・日本文化学・教授)